

6 月 13 日 一般質問の要旨

◆吉川市第5次総合振興計画の土地利用構想が変わった経緯は

(問) 産業まちづくり地域とは  
 (答) 市長 農業系の土地利用が中心の地域で、幹線道路の整備など交通利便性が向上し、将来的に開発が予想される三輪野江地域、須賀榎戸地域を位置づけた。

(問) 住居系が産業系に変わった経緯は  
 (答) 市長 過去に街づくり協議会が設けられ区画整理事業などが検討されたが、合意形成されずに白紙となった。その後道路の開通やバイパスやスマートインターの整備が進み新たに「産業まちづくり地域」を位置づけた。

(問) 計画への市民意見は  
 (答) 市長 土地利用について地域住民からの特別な意見はなかったが、交通利便性の向上など工業系や流通系の開発機運が高まった場合に備え「産業まちづくり地域」に位置づけた。

(問) 白地地域の土地利用は。  
 (答) 市長 白地地域は、農用地に比べ規制が緩い面があり、長期的には無秩序な開発や土地利用が進行する懸念がある。それを防ぐためには早期に開発の方向性を見定めるか、農用地からの除外を見直すことも視野に入れる必要がある。

(問) 10 年後の三輪野江地域は。  
 (答) 市長 開発がなければ三輪野江地域の将来人口は10%程度減少する。

◆計画の執行体制について  
 (問) 部門間の連携は  
 (答) 部長 道路の工事に関し電気、NTT、ガス事業者で構成する調整会議を開催している。  
 (問) 地域との連携は  
 (答) 市長 民生委員協議会における学習活動や自治会が行う行事への民生委員・児童委員の参加について各自治会に依頼した。  
 (問) 計画の進行管理について  
 (答) 市長 行政評価制度を活用しながら適切な進行管理に努め市の HP で公開していく。

審議した主な議案

- 吉川市印鑑条例の一部を改正する条例(住基法改正の影響)
- 平成 24 年度吉川市一般会計補正予算(補正額1億 3,513 万)

放射能測定器



自民・みらい会派行政視察

吉川美南小学校

吉川美南駅が開業し、発展が期待される吉川美南4丁目に、新しい小学校の建設が進んでいる。今年度中には中庭のある三階建ての美しい校舎が姿をあらわす。開校は来年4月。

吉川市東部市民センター

食品類の放射能に対する不安が高まっているが、ここでは小中学校の給食食材の放射性物質を分析している。市内の小中学校で提供される食材は、ここで放射能の検査が実施され、安全・安心な学校給食を提供するよう取り組んでいる。



児童館ワンダーランド

平成元年にオープンした施設で、鉄筋コンクリート3階建てプラネタリウムや天体観測室を備えた児童センターとして、小学生を中心に多くの団体などに利用されている。平成23年度の利用者数は28,591人で前年度に比べ減ったが、プラネタリウムの利用者数は増えている。

